（別紙2）

地域医療支援病院業務報告要旨

１　概要

|  |  |
| --- | --- |
| フリガナ | ｲﾘｮｳﾎｳｼﾞﾝﾄｸｼｭｳｶｲ　ﾔｵﾄｸｼｭｳｶｲｿｳｺﾞｳﾋﾞｮｳｲﾝ |
| 病院名 | 医療法人徳洲会　八尾徳洲会総合病院 |
| 管理者氏名 | 原田　博雅 |
| 所在地 | 大阪府八尾市若草町1-17 |
| 承認年月日 | 令和5年4月1日 |
| 業務報告書提出日 | 令和5年9月29日 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ２　業務報告 　　　 | 対象期間 | 令和４年４月１日　から　令和５年３月３１日 |

◇紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する紹介患者の実績（患者数は延べ人数）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 承認要件 |  |  |
| 紹介率 | Ａ/(Ｖ-d-e-f) | 82.0％ |
| Ａ：紹介患者数 | 12,307人 |
| Ｖ：すべての初診患者の数 | 26,658人 |
| ｄ：救急搬入患者の数（初診患者） | 5,770人 |
| ｅ：休日夜間の患者数（初診患者） | 5,885人 |
| ｆ：健康診断の受診から要治療となって治療を開始した患者の数（初診患者） | 0人 |
| 逆紹介率 | Ｃ/(Ｖ-d-e-f) | 65.9％ |
| Ｃ：逆紹介患者数 | 9,896人 |

◇救急医療を提供する能力、実績

|  |  |
| --- | --- |
| 重症救急患者を優先的に使用できる病床 | 28床 |
| 重症救急患者のための専用病床 | 28床 |
| 地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬送された救急患者数 | 8,563人 |
| 救急搬送以外の救急患者数 | 15,591人 |

|  |  |
| --- | --- |
| 救急用自動車（保有台数） | 2台 |
| 救急自動車の主な装備 | ｽﾄﾚｯﾁｬｰ、酸素ﾎﾞﾝﾍﾞ、人工呼吸器、除細動器、ｱﾝﾋﾞｭｰ　等 |

◇地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制

|  |  |
| --- | --- |
| 共同利用の実績（医療機関延べ数） | 4,541 |
| 共同利用の範囲 | CT、MRI、RI、腹部超音波検査、心血管超音波検査、胃カメラ、大腸ファイバー、図書室、会議室、登録医控え室 |
| 共同利用に関する規定 | 有 |
| 登録医療機関数（二次医療圏外含む） | 　　　　　　　　　　　　　　246　機関 |
| 常時共同利用可能な病床数 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　20　床 |

◇地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

|  |  |
| --- | --- |
| 研修の内容 | 学術講演会　　3回・症例検討会　　36回・その他　　10回 |
| 地域の医療従事者への研修実施回数 | 49 |
| 研修者数　※院外からの延べ参加人数 | 299 |
| 研修体制 | 研修プログラム | 有　 |
| 研修委員会の設置 | 有　 |
| 研修指導者数 | 34 |
| 研修施設（施設名） | 八尾はあとふる病院、池田クリニック、西岡医院、八尾北医療センタ－等 |

◇診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

|  |  |
| --- | --- |
| 管理責任者 | 病院長：原田　博雅 |
| 管理担当者 | 事務長診療情報管理室主任 |
| 診療に関する諸記録の保管場所 | システムサーバー室、診療情報管理室、院外倉庫 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録の保管場所 | 共同利用の実績 | 病診連携室 |
| 救急医療の提供の実績 | 医事課 |
| 地域の医療従事者向け研修の実績 | 病診連携室 |
| 閲覧実績 | 診療情報管理室 |
| 紹介患者等の帳簿 | 病診連携室 |

◇診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

|  |  |
| --- | --- |
| 閲覧責任者 | 病院長：原田　博雅 |
| 閲覧担当者 | 診療情報管理室主任 |
| 閲覧に応じる場所 | 会議室・面談室・病診連携室・診療情報管理室 |
| 閲覧者別総件数 | 医師 | 　2件 |
| 歯科医師 | 0件 |
| 地方公共団体 | 63件 |
| その他 | 36件 |

◇医療法施行規則第９条の１９条１項に規定する委員会の開催状況

|  |  |
| --- | --- |
| 委員会の開催回数 | 4回 |

◇患者相談の実績

|  |  |
| --- | --- |
| 相談を行う場所 | 相談室・相談窓口・病室 |
| 主たる相談対応者 | Ｎ　Ｓ：　　　　　　1人、　ＭＳＷ：　　　　　10人Ｓ　Ｗ：　　　　　　0人、　事　務：　　　　　1人その他：　　　　　　　人 |
| 相談件数 | 21,288件 |
| 相談の概要 | 転院に関する相談内容では、療養病床、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床、介護医療院など、患者さまの病状と、患者さま、家族様のニーズに合わせた社会資源の提案をしている。急性期病院の役割として、円滑に転院できるよう入院前からの支援にも力を入れている。　自宅退院に関する相談内容としては、訪問看護や訪問診療の手配が多くある。特に身元保証がない方への対応については、家の片付けの手配や、医療保険や介護保険の申請代行などを担うこともある。特に、退院時共同指導料にかかわる多職種によるカンファレンスでは、多くの地域の社会資源との連携に工夫をしている。　施設入所には、近隣の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の職員と顔の見える関係づくりをしているのみならず、系列である老人保健施設や、介護老人福祉施設などとの連携強化にも力を入れている。特に、ルールに縛られない柔軟な対応を系列である施設に依頼することもある。　介護保険に関する相談内容は、新規申請のみならず、区分変更の説明や申請促しを実施している。また、介護支援専門員との連携を強化し、共同で、家族への指導を行っている。例えば、書面での情報共有により、ADLや生活背景を共有し、また、居宅支援計画書の共有にも力を入れている。　医療費に関する相談内容は、おもに、高額療養費医療制度に関することや、医療保険の確認、傷病手当金、障害基礎年金、障害厚生年金、難病申請などの相談が多い傾向である。　その他として、患者さまと家族様のご意見の相違に対する調整や、病院や主治医に対する厳しいご意見などに耳を傾け、ニーズを整理することがある。また、無保険者や、外国人特有の悩み、精神疾患をお持ちの方のご要望などを拝聴し、可能な限り、ニーズを抽出するアセスメントに心がけた介入をしている。　これらの患者相談の内容は、入院患者のみならず、外来患者、もしくは、入院も外来もしていない患者さまやその家族様も対象となることがある。重ねて、がん相談として、先進医療、ゲノム医療、セカンドオピニオン、就労支援などの相談を受けることもある。 |